

# 英語教師の勉強

高橋 充

## はじめに

高等学校で英語を教えて28年になる。大学4年のときに教育実習を2週間やっただけで飛び込んだ世界は、右も左もわからないところだった。それでも、先輩に助けられ、同僚と励まし合いながら、長い道を歩いてきた。

この2年間は、教育機関に勤務して、先生たちの研修の手伝いをしながら一緒に勉強している。先生たちの喜びや苦しみを聞くにつけても、現場は大変だなあ、おもしろそうだなあ、と思う。早く帰りたいものである。

若いころから勉強の大切さを言われてきた。自分なりにくふうしたのもあったし、教わった方法もある。同じ研修を受けたことがご縁でつきあいが始まり、大切な先輩になった先生からこう言われた。「教室で使う英語はほんの少しでも、我々にはたっぷりとした英語の力がなくてははいけない」

以下いくつかの勉強方法について書いてみたい。いくらかでも参考になればうれしく思う。

## 若いころ

偶然だが、初めての学校に同年代の英語教師が私を含めて3人いた。すぐに気が合い、いろいろなことを話した。英語教育について、学級の問題について、趣味について。お酒も飲んだし議論もした。そのうちに、何か一緒にやってみようということになり、受験英語の勉強をしたり、カセットテープレコーダーが配布され始めたころだったので、ヒアリング教材の研究なども行い、授業に取り入れた。読書会もやっていろいろな本を読んだし、遊ぶことも忘れなかった。

3人で同じ学年を担当することがようやく実現して、がむしゃらにがんばったこともあった。初任者

研修などまだない時代だったが、毎日が研修のようなもので充実していた。

若い先生たちに聞くと、最近は同僚と話し合ったり、一緒に研究するということがなくなってきているとのことである。残念に思う。同じ学校でも、近くの学校でもいいので、仲間を見つけて一緒に取り組む努力をしてほしいと思う。

## 英会話

ある先生との同職がきっかけで本気で英会話を勉強するようになった。教師になって3年目のことである。それまでは、大学時代のわずかな貯金を使っているようなものだったし、いくらか話せるという思い上がりもあった。その先生は職場への行き帰りは自転車にテープレコーダーを積んで英語を聞き、毎日、NHKラジオの「英会話」を聞き、映画のテープからスクリプトを起こすということを趣味としていた。話せば流れるような英語であった。

さっそくあやかって、「英会話」のテキストを注文した。当時は東後勝明先生が講師で、スキットを丸暗記して繰り返し話してみることを勧めていた。さっそくやってみて、なかなかいいことがわかった。ぼつぼつとALTの前身である文部省フェローの学校訪問が始まっていたころで、覚えた表現などを使ってみるといい気分なのである。この勉強は15年ほど続けた。

その後は「やさしいビジネス英語」にグレードアップ(?)し、テキストの丸暗記はやめたが、いまでも欠かさず聞いている。ビジネス事情に限らず、風俗や習慣、教育事情や社会情勢など話題は多岐にわたり、異文化理解にもなる。なによりも講師の杉田敏先生の英語がすばらしい。日曜日に1週間分の再放送があるので、聞き逃すことはまずない。

## リスニング・トレーニング

1日に60分英語を聞くことにしている。長年、「英会話」のスキットや「やさしいビジネス英語」のヴィニエットを録音していて、そのテープが100本ほどあり、ほかに映画のテープもかなりある。それを1日1本をノルマにして聞いているのである。英会話のスキットを暗記していたときと同様に、犬と散歩しながらや自転車に乗りながら、電車の中で場所はいろいろである。

あたりに人がいないと、テープをまねて英語を話すシャドウイングを試みたりする。

これは友人の例だが、語学雑誌についてくるテープを通勤の車で必ず聞くことにしていて、1か月に同じテープを20回以上聞いているそうだ。ほとんど暗記できるぐらいだという。

いろいろな人がくふうをして聞く訓練をしている。継続は力である。

## 教育センターでの研修

現在、秋田県総合教育センターに勤務している。それとは別に、若いころから何回となくセンターの研修を受けてきて、センターに育てられた思いがある。研修の内容はもちろんであるが、受講者の先生と知り合いになり、授業の進めかたについて話し合ったり、勉強方法を伺ったりした。以後の教師生活に大きな影響を与えていただいた先生たちも多い。

最近では生徒数も少なくなり学校の英語教師の数が少なくなってきている。地方にいれば研修の機会も少ない。多くの英語教師と交流して情報を集めることも必要なことである。若い人にはさまざまな研修に積極的に参加して自分を深めてほしいと思う。

## ペーパー・バック

できるだけ原書を読もうと思っている。読む英語が教科書だけなどということになれば、これほど情けないことはない。しっかりした読む力は英語教師には不可欠である。

小説が好きなので評判の翻訳や映画があれば原書を取り寄せて読んだり、年末に数社で出す年間ベストミステリーのリストを参考にして捜したりする。月に1、2冊の気ままな楽しみである。

最近では、John Grishamの*The Testament*がおもしろかった。巨額の遺産をめぐる醜い相続争い

と、相続の権利がありながら南アメリカの奥地でミッション活動が続ける無垢な女性、さらには、アルコール依存とたたかう弁護士が絡む物語で、Grisham 得意のリーガル・サスペンスである。

以前は、地方に住んでいるため本を手に入れるのが難しかった。たまに都会に出るとまとめ買いしたりした。ところが最近では、インターネットという優れたものがあり、読みたい本が簡単に手に入る。サイトによっては読者の書評が紹介されていたり、作品への評価が五つ星で示されていて楽しめる。

## ナショナル・ジオグラフィック

89年にアメリカ合衆国へ研修に出かけた。ペンシルバニアでホームステイがあり、そこで初めてお目にかかったのが*National Geographic*である。とてもおもしろく、その家にあったバックナンバーも何冊か読んだ。そのことがきっかけで、ホストファミリーの奥さんから1年分プレゼントされ、以後定期購読している。

世界各地の地理、文化、風俗、歴史、動物、植物などが取り上げられていて、楽しさはつきることがない。美しい写真が添えられていて写真集としても価値がある。ジャーナリスティックな文章やサイエンス・レポートを読む力もつく。

学校にいたころは、教科書のトピックと重なるものがあると、日本語で解説をつけて生徒に回覧し、喜ばれた。友人や若い教師に勧めたり、プレゼントとしたりして、読者拡大に努めている。

## ALTの助け

自己研修に欠かせないのがALTの助けである。

TTの授業をやって教えかたを研究したり、評価しあったりして力量をつけるのはもちろんであるが、それ以外にもいろいろ協力していただける。

読めない英語があれば聞くことができるし、新しい、辞書にもまだ載っていない表現でも教えてくれる。文化や習慣については言うまでもない。いろいろなことを話すことを心がければ英会話の練習にもなる。声を大きくして言いたいのは、ALTに日本語を教えたり、日本文化を紹介することをぜひやってほしいということである。こちらが助けをもらうだけでなく、彼らの日本での勉強を助けてあげるべきである。そのことが自分の勉強にもなる。

月に1編，エッセイを書いてALTに添削してもらっている若い先生がいた。続けることは楽ではないが，相談しながら英語を直していくと，文章の息づかいまでわかるような気がしてとても勉強になるという。こういう形で英語を教わることもできる。

多くのALTが，来日する前に描いていた自分の仕事と，実際の仕事の違いとまどっている。「日本の英語教育は諸君の力にかかっている」などと言われて，来てみると，テープレコーダー代わりにしか使ってもらえなく，くさっている人もいる。ALTの日本でのアイデンティティーの確立に我々はもっと心を砕くべきである。

### 父さんの英会話

公民館の行事として「父さんの英会話」という講座を2年間担当した。その後，勉強を続けたいという父さんたちの希望で自主講座を1年やった。単身赴任を余儀なくされて，やむなく中断したが，多くのことを学んだ。

目標は，海外に旅行したときに簡単な買い物ができること，そして，町にも何人かいる外国人のホステスさんと英語で話をして国際交流を深めることができることであった。

教材を作り，週に1回，大きな声で練習した。町のCIRや所属校のALTには大いに協力していただいた。練習しているうちに，かつて学校で勉強した記憶が戻ったりして，みんな熱心だった。それぞれに仕事を抱えており，続けるのは大変である。疲れたら休んでもいいこと，晩酌をやってから来てくれればもっといいことなどを条件にした。

学校以外のところで英語を教える場があるということは，学習の困難さについて考える機会になるし，いろいろな意味で勉強になる。

### 英語だけでなく

英語教師としての勉強をいろいろな角度から考えてみたが，いわゆる，専門馬鹿にはなってもらいた

くない。英語は抜群にできるし，勉強も人一倍している，授業はすべて英語で，という申し分のない英語教師が，実は，生徒の気持ちを理解できなかったり，保護者と向き合って話ができなかったり，事務能力がなかったりでは困るのである。

教師の仕事は教科の指導が半分，あとの半分は生活や進路の指導，いわゆる「生きる力」の育成である。

たっぷりとした英語の力をつけてほしいというのが本稿の趣旨だが，教師としてのもう半分の側面にも少し触れたい。

優れた教師というのは教科の実力はもちろんだが，人間理解に優れている。生徒を理解し，いつ，どんなタイミングで支援したらいいのかを心得ている。もちろん，すぐにそうできるようになったわけではなく，何年もかけて研修を積んだ結果である。褒めて励ますことも忘れない。

保護者とのかかわりもしっかりしていて，生徒のことばかりでなく，社会のさまざまなことについて話ができ，世間を知っていて，職業選択の指導などもできている。

教師には事務能力も必要で，正確な成績処理や保護者への遺漏のない連絡，指導要録の的確な記述など多くのことが求められる。その勉強にも時間をかけてほしい。

### おわりに

教師という職業に限らず，人間は一生勉強だと思う。若くても，中堅でも，ベテランになっても，自分の年齢や職場での立場をわきまえた勉強が必要である。これで十分ということがない。

教科の勉強と教科以外の勉強を，バランスを取りながら，両輪のようにして続けてほしい。混とんとして先行きが見えない時代であればこそ，教師はやりがいのある仕事であり，報われる仕事である。

(秋田県総合教育センター主任指導主事)